

JR 在来線完全制覇の旅（第一回）

清水 勉

温泉、神社・仏閣、酒蔵、マイクロ鉄塔を巡る「旧国鉄在来線の旅」（東北編）

皆さんは、何歳の時に初めて列車に乗車したのでしょうか。

自動車や飛行機が発達していない時代、唯一の移動手段としては SL 列車しかありませんでした。

私が初めて SL 列車に乗車したのは、小学校 2 年の期末です。

福島県の湯本町から一家 4 人、東京に上京するための片道乗車なのです。

当時、地元の主力産業であった常磐炭鉱が閉山となるため、父親が決断し東京の親戚を頼りに上京することになりました。

もし、この決断がなければ、映画フラガールで有名なスパ・リゾートハワイアンズ（旧名：常磐ハワイアンセンター）で、私は切符のもぎりをしていたことでしょう。（笑）

上京当日、旧宅から湯本駅まで自動車（タクシー）にも初めて乗車し、SL 列車に揺られながら上野駅に向かいました。

当時の思い出は、何と言っても【千住のお化け煙突】で、今でも脳裏に焼き付いています。

東京に来てから、父親が電車に乗せてくれることになり、妹と乗車（有楽町駅と思えます）し 2 時間近く車窓を楽しんだのち、下車した時に父親から【何処かわかるか？ 同じ駅だよ】と言われたのを覚えています。

省線・国電・酷電と呼ばれていた山手線を一周したわけです。

さて、今から考えますと私の【乗り鉄】が始まったのは、高校 2 年（昭和 40 年）の夏季休暇のアルバイトからスタートしたと思います。

当時は、電話の拡充期で F A X、メール、パソコンそして宅急便もありませんでした。



夏季休暇のアルバイト先は、芝浦にある某電気メーカーの装置を梱包（木箱）と輸送する小さな運送会社です。

高校が、高輪にありましたので都電通学用定期券も利用できました。

偶然ですが、この梱包した装置は

電電公社のアナログ搬送装置（後でわかりました）で、水戸大町ビルに運んでいきました。

推定ですが、水戸統制無線中継所（大町ビル）～水戸統制電話中継所（搬送ビル）間のT I E同軸用L A装置と思われます。

昭和40年夏、アルバイト先より契約書を持参する仕事を指示され、静岡県清水駅（これも偶然です）まで運びました。

昭和41年夏、同じように山口県下松駅まで契約用印鑑持参を指示され、往路は新幹線利用、復路は普通列車利用となりました。

もちろん新幹線に乗車するのは初めてですし、当時は、長距離鈍行全盛期でしたので、一度乗車すると東京駅まで乗り換えがありませんでした。

朝夕は通勤列車となり混雑しますし、夜は、網棚（丈夫なロープでした）をハンモック代わりに使用し、仮眠をしたことを記憶しております。

昭和42年4月、渋谷統制無線中継所に入社しサラリーマン生活がスタートしました。



後期訓練では、名古屋からは近鉄を利用し白子駅で下車し、鈴鹿電気通信学園に入寮しました。

鈴鹿電気通信学園は消滅しましたが、近隣地区は、近鉄以外に伊勢鉄道（昭和48年旧国鉄にて開通し第三セクターに転換）の玉垣駅もあり便利になりました。

両路線とも毎年参拝する伊勢神宮

への路線ですので利用しています。



渋谷統無中時代、仙台統無中（国見）への予備パネル持参の出張がありました。

新幹線がありませんので1-2の宿泊出張です。

往路は、東北本線特急で仙台に到着し仕事を終え、夕方、常磐線鈍行に乗車し上野方面に向かいました。

途中、いわき駅で接続がありましたが、結果は、土浦駅に深夜1時頃に到着し朝1番の列車まで駅構内で仮眠となりました。

また、関通無線課時代、先輩・同僚と共に信越電気通信

局で打ち合わせがあり信越本線で長野に向かい、帰路は、篠ノ井線松本経由で甲府宿泊、中央本線で帰社したこともありました。

以前より、時間とお金が許す限り往路と復路の列車ルートを変えていたのです。

乗り鉄を本格化させたのは、2012年（平成24年）春からです。

手始めにどの方面からスタートさせるか検討しましたが、①震災被災地エリア ②出身エリア ③JR 東日本エリアである東北に決めました。

西日本方面は、大人の休日倶楽部が65歳以上から3割引になりますので、金銭にも考慮したわけです。

次は乗り鉄に何を組み合わせるかです。



列車に乗るだけでは苦痛ですので、温泉、神社・仏閣参拝（御朱印受領）、酒蔵訪問、都市部のマイクロ鉄塔撮影を組み合わせることにしました。

また、遅くとも夕方6時までには宿に入り、風呂上がりの美味しいビールと食事を楽しむ計画で時間設定を行っています。

更に、旧国鉄区間を75歳までに乗車する計画とし、JR 区間、第三セクター区間完全乗車を目指すことにしました。特に、廃線が囁かれている路線は優先乗車しています。

実際には、時間が許せば私鉄区間、路面電車区間も組み込んでいます。

平成25年9月末までの東北エリアの路線乗車状況ですが、東北本線を中心として日本海側が終了しました。

しかし、津軽半島の津軽線：青森駅～三厩（みんなまや）駅間がアクシデントのため完了しておりませんし、只見線：会津若松駅～小出駅間は災害により鉄橋流失のため代行バスとなっています。

また、太平洋側については、災害復旧状況に合わせ被災地訪問を兼ねて路線乗車を計画していく予定です。

旧国鉄時代から現在に至るまでに、相当数の路線が変わってきています。

東北エリアでの代表例を挙げてみましょう。

1. 三陸鉄道など

- ・旧国鉄路線である宮古線、久慈線、盛線および日本鉄道建設公団が建設中の路線を引き継ぎ第三セクターに転換、この他にも転換路線、廃止路線があります

2. IGR いわて銀河鉄道、青い森鉄道



- ・東北新幹線盛岡～八戸間および八戸～新青森間開業に伴い、東北本線の盛岡～青森間を第三セクターに転換しました
- ・写真の野辺地駅から JR 大湊駅間の JR 大湊線は、全国唯一他の JR 路線と接続されていない単独路線となっていました。

3. 奥羽本線の分断

- ・山形新幹線福島～新庄間開業に伴い、奥羽本線を新庄駅構内にて完全に分断しました
- ・理由は、新幹線の線路規格（標準軌）と奥羽本線の線路規格（狭軌）との接続ができないためです

4. 災害復旧が完了していません

- ・常磐線は、福島第一原発地区通過のため広野～原ノ町間復旧の目途立たず
- ・気仙沼線、大船渡線、山田線、仙石線、岩泉線、只見線なども目途立たず
- ・早期復旧の道筋が見えればよいのですが

東北方面での思い出を幾つか紹介してみます。

① 乗換駅で反対側の路線に乗車してしまいました

新庄駅から陸羽西線で日本海方面に向かいますと、終点の羽越本線余目駅に到着します。

ここから酒田駅方面に向かうため、電光表示板で列車案内を確認し乗車しましたが、少したちますと鶴岡駅方面（逆方向）に向かっていることに気が付きました。

余目駅発車時刻を確認したら、ホーム共用で同じ時間に上下入線していること、電光掲示板が上下路線共用であったため間違っ乗車してしまったのです。

途中で降りても酒田駅方面の列車が無いので、終点のあつみ温泉駅まで行

き酒田駅方面の列車に乗車しましたが、宿泊地には2時間遅れの到着となってしまいました。

それでも風呂上がりの美味しいビールには間に合いましたけど。

② 立派な駅舎でした



秋田県の鷹巣駅（JRは鷹ノ巣駅）と角館駅を結んでいる、第三セクターの秋田内陸縦貫鉄道があります。

本社は、阿仁合（アニアイ）駅内にあり駅舎も立派でした。

この路線には、マタギの里である阿仁マタギ駅があります。

また、〇〇内と言う地名も多数

あるので調べたところ、阿仁、〇〇内の地名は、アイヌ語であることがわかりました。

奥羽本線の大鰐温泉駅も、オオアニが訛ってオオワニになったそうです。平安時代、この地方は蝦夷（エミシ）と呼ばれていました。

③ 豪雪の私鉄最北端の鉄道



津軽平野の津軽五所川原駅（JRは五所川原駅）から、津軽鉄道が津軽中里駅まで【走れメロス号】を運行しています。

沿線には、太宰治記念館【斜陽館】、津軽三味線会館がある金木駅、桜の名所の芦野公園駅、冬には有名なストーブ列車も運行されています。

④ 駅舎内の温泉駅



東北本線北上駅から奥羽本線横手駅に向けて、一両編成の北上線がトコトコ上って行きます。

中間地点には紅葉の錦秋湖、駅舎内に温泉施設もある【ほっとゆだ駅】もあります。

温泉室内には、列車接近信号機も設置されていますので安心して入浴できます。

⑤ 秘湯の宝庫です



東北地方秘湯の宝庫は、十和田八幡平周辺です。

今では有名になってしまいましたが、玉川温泉（北投石：ラジウム放射線）に湯治客が多数来ています。

1,400 m に位置する藤七温泉（ここは本当にワイルドです）、蒸の湯温泉（子宝の湯、女性に人気）、大深温泉（オンドル棟設置、完全自炊）、後生掛温泉（個人的には玉川温泉のミニ版、湯治場あり）、志張温泉（アルカリ系）、銭川温泉（アルカリ系）な

ど多数の温泉施設がありますので是非訪れてみて下さい。

近年、鉄道マニアは沢山いますが趣味の幅が広く、私のように路線乗車の乗り鉄、列車撮影の撮り鉄、客車・機関車・作業用列車・鉄橋・トンネル等の施設へのこだわり、JR・私鉄別、更には、廃線マニアなど多数あります。

自分に合った趣味と組み合わせて全国を旅するのも面白いものです。

切符の種類も、一日乗車券、地域限定乗り放題、青春18切符、大人の休日倶楽部、バースデー切符、65歳以上切符など多種多様なフリー切符が全国で発売されています。

列車の旅は、時間とともに様々な思い出が詰まって行きます。

皆でワイワイ楽しい旅、失恋・お見舞い・葬儀参列の辛い旅、顧客へのお詫びの旅等、目的地までの時間、帰宅までの時間、この時間が大切に感じて来るのではないのでしょうか。

車窓からぼんやり眺めているうちにアイデア、詩、文面等も湧いてきますし、雄大な自然への感動、そして何か解らない施設の発見もあるでしょう。

現代のように、新幹線で短時間に移動できる時代になっても、色々な思い出を残して行きます。

奥様同伴、恋人・友人同士、一人旅など素敵な列車の旅を計画してみたいかがでしょうか。